



目次

| | |
|--------------|---|
| 魔王 ゲーテ | 1 |
|--------------|---|

魔王 ゲーテ

誰だ、こんな夜更けに、闇と風を突き、馬を駆り立てるのは？

それは、父と子。

父親は子どもを腕に抱き、

ヒシと抱え、温めている。

「息子よ、何をそんなに怯え、顔を隠している？」

「父さん、魔王が見えないの？」

王冠を被り、シッポを生やした魔王がさ？」

「息子よ、あれはたなびいている霧さ。」

「可愛い子よ、こっちへおいで！

飛び切りの素敵なお遊びをしよう。

浜辺には、とりどりの花が咲く。

母の箆笥は、黄金の衣装で溢れている。」

「父さん、父さんには、聞こえないの。

何をひそひそ魔王が約束してくるのががさ？」

「気を静めて、落ち着くんだ、息子よ。

風で、枯れ葉がカサコソ鳴っているのさ。」

「か弱き少年、一緒に来ぬか？

娘らが、きちんと世話を焼く。

夜には、輪舞をリードする。

揺らして、踊らせて、歌って、眠らせる。

揺らして、踊らせて、歌って、眠らせる。」

「父さん、父さんには、見えないの、

暗がりには魔王の娘たちがさ？」

「息子よ、息子、わしにははっきりと分かる。

濃い灰色の柳の古木で、そう見えるのさ。」

「愛している、実にそそる美しい姿、
嫌というなら、力づくさ。」
「父さん、父さん、今、襲ってきた！
魔王が、僕に、嫌なことをする！」

動揺した父親、
馬に鞭を食らわせる。
うめき声を上げる子を
しっかりと腕に抱き。
精も根も尽き、屋敷に辿り着くと、
父の腕にダラリと寄りかかり、その子は、
死んでいた。

魔王 ゲーテ

翻 訳 bambus

制 作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
